

前回の続き、本当のハワイ編である。1月2日に千歳から成田まで飛んで着陸後、扉を開けコクピットからパイロットが手を振り見送ってくれるサービス満点のLCCジェット・スターに、満足至極気分を味わうことができた。

考えてみると料金が3倍違うANAやJALのサービスって？と疑問に感じる。以前はスッチャーの数を減らすと安全に関わる！なんてこと言ってるストライキをやった建前闘争にも疑問符が付く。スッチャーの給料がススキノのおねーさまよりも高いこと自体が、日の丸背負って自分たちは発展途上国の人間だと、恥のかき捨て行為をやっていた。勘違い自負心は大したものだ。だから庶民は尊敬と憧れを込めて彼女たちのことをスッチャーと呼ぶのだろう。

ただ10年ほど前から新人スッチャーたちは時給制になり、多様な社会環境の人たちが集まり、CA（キャビン・アテンダント）と呼ばれるようになる。訓練中にまだ指示されていないのに床に片膝ついて接客したら、風俗大好き男性教官から後で呼ばれ、「お前はどこの店にいたんだ？」と。これから世のスケベな男性諸君に、片目ウインクの大股全開サービスも期待できるかも。

話をハワイに戻そう。お土産に私

の好物ではあるがアメリカ人には評判の悪い小豆のあん入り北海道名産ノースマンを買ってあるので、成田のターミナルでは自分自身が日本人だなくと実感する粉茶を買うだけであつた。アメックスのおにちゃん配っているボールペンを1本いただき、出国ブースに入ろうとした時、アナウンスがあつた。

「おおしま ゆうこ さーん、〇〇までお越しください」って、あの大

島優子か？ それとも同姓同名か？後からAKBファンに聞くと、やはり当日AKBの何名かはハワイに向かつたらしい。ファンのいたずらの可能性もあるが、なんかAKBに会えるかもしれないと思うとワクワクした気分になるのはまだ精神年齢が若い証拠なのだろうか。

## 移民大国のタクシー運転手

サンフランシスコからLAに向かい、メインランドの用事も済ませLAからハワイ・オアフに向かった。空港からホテルまでタクシーを利用

# Vol.61 おおしま ゆうこ さーん♡



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

したが、その後同じ運転手に二度会うことになった。タクシーは情報のクラウドである。景気はどうか？どの会社が儲かっているか？などの最新情報は運転手さんに聞くのが一番早く、世論調査にお金をかけるくらいならタクシー会社と契約した方が安くて正確なのかもしれない。アメリカでもタクシーを利用するときは、必ず運転手さんと会話をするように

# オレにも 言わせる！ 北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

している。理由は現地の情報収集だつたり、タクシー運転手さんの生い立ちや家族の話にもすごく興味があったり、**移民大団なんだな**と改めて感じる人が多い。つまり運転手のほとんど全員が普通のアメリカ人の平均よりも寿命が短い1世の移民で、子供たちのために働く姿が**ナマラ**(北海道弁で、すこく)頑張っているお父さん”なのである。

例えば今回、出会ったオアフの運転手、リー(Jee)さんに「どこの出身ですか?」と聞いたら「ベトナム」だと言う。名前からてっきり香港系中国人だと思っていたが、旧南ベトナム出身で大学を卒業後、ある研究所で働いていたという。アメリカが撤退してベトナム戦争が終結、北ベトナム軍がやってくると生活は一変したようだ。そして数年が過ぎた1979年に小さなボートに4家族17名が乗り込み、当てのない南シナの大海原に向かうことになった。俗にいうボートピープルと呼ばれた人たちである。水も食料も尽きた5日目に運よくマレーシアの商船に助けられ、船の目的地であるクアラルンプールで3カ月を過ごし、弟さんが住んでいたアメリカ・サンディエゴに行くことができた。

彼はこう言った。「自分たちはラ

ッキーだったけど……」。戦争が終結して直ぐならまだしも数年が経つと、ベトナムを逃げ出したボートピープルを助けられない、わざと見過ごす船の存在も知っていたそうだ。リーさんから「あんなつらいことは二度とごめんだ」「戦争で死ぬことができた同級生の方が幸せかもしれない」と聞いた。その当時、女の子のお尻を追っかけていた自分の幸せ度を再認識することになる。

ベトナム戦争はアメリカだけが参戦していたと勘違いしている人が多いのだが、実際は韓国・タイ・フィリピン・オーストラリア・ニュージーランドも兵士を送って北ベトナムやベトナムと戦い共産主義の覇権を防止しようとしたのだ。

報道ではアメリカ軍がやったソニック村虐殺事件は有名で、アメリカのみが悪行をやっていたとされるが、ある噂を聞いたことがあるのでリーさんに、どの軍隊がひどかったのか事の真相を聞いてみた。

「〇〇軍はひどかった」。3回も偶然に会うと心を開いて本心を語っていると感じた。そしてその一番ひどい軍人と家族は70年台後半からアメリカ移民のご褒美を与えられ、今では明らかに日系人よりもパワーを示している事実がある。

空港に着いた時にリーさんが残念

そうにポツリと語ったことが印象的だった。「**自分の子供たちにはつらい体験が理解されていないんだよ**ね」

で、ハワイで何をしたのか? 引きこもり。6日間ただ黙ってホテルの部屋でダンマリを決めこむことにした。目の前100mの金髪・ブルーアイがウヨウヨいるビーチも、夜になるとザー、シャバ、シャバートと波の音だけが聞こえるのだが、決してビーチに行くことはなかった。

なぜって? たぶんトラウマと言うやつなんですよ。若い時ビーチでサーフボードを借り、怖いもの知らずの若者よろしく、沖合に200mくらい先を指すと、キター! とばかりのビック・ウエンズデイ(大波)が私を飲み込み、時が止まったかのように、波の中でゆっくりと回っている自分がいました。たぶん意識を失い、目を覚ますと周りには金髪・ブルーアイの人ばかりが……。

「おっ、こいつ生きてるぞ!」の声で我に返り、その後ボードを返しに行くボード店の人が事の成り行きをすっかり見ていたようで、こうホザキやがった。「なんで滑り止めワックス塗らなかつたんだ?」

はあ? そんなこと聞いてねよ。それ以来、今に至るまでどの場面の状況においても、膝より深い所

に進むことはできない16歳のチェリーボーイ物語でした。

食事も半径100m以内のレストランならまだいい方で、結局はホテルの向かいのワイキキのどこにでもあるABCストアで、ハムサンドとサラダ、ミルクを3回に分けて食べることにし、毎日同じものを買っている。と店員からは「今日も同じね♡」となるが、全く不満は感じなかった。

最終日は私の誕生日にしか食べられないアメリカの伝統的な家庭料理であるチリ・ビーンスを味わう幸せは、TPPなどと言う単語も忘れてしまふ25年後の日本人にしか理解できないんだろうなと自己満足して、**税金が増える日本政府のTPP関連の予算配分に期待**して、来年もワイハを楽しむぞ!

ハワイにはこんな言い伝えがある。「**5代先のことを考えて行動しなさい**」。つまりTPPに**いまだ否定的**で昨日のままで良いと考える者、**組み換え作物を否定**する者、アメリカを理解できない者たちは**小作人根性**のまま**でいなさい**、と言うことなのでしょうね。**カチーン!**と来た方たちのクレームは東京・四谷駅すぐそばハワイ州観光局03-5213-4643までどうぞ。アロハ。